

「ヒメカツオブシムシ (2)」

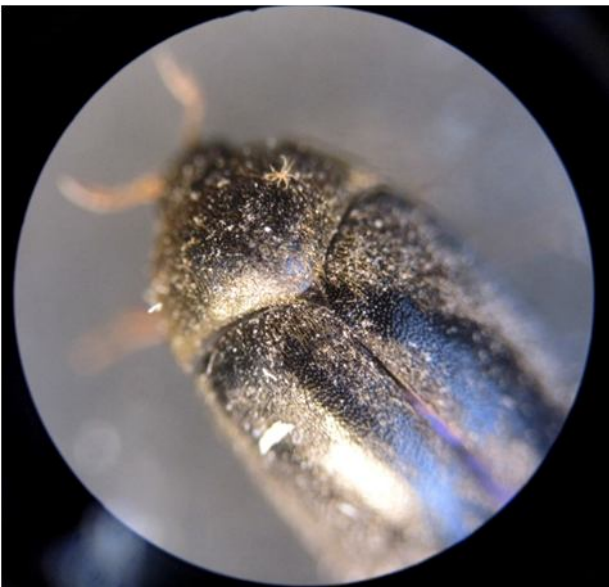
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ヒメカツオブシムシ *Attagenus japonicus* は甲虫なので、恐らく完全変態をするはずである。調べてみると、果たしてその通りであった。幼虫は衣類(特に天然繊維の羊毛や絹)を食べる。従って産卵も衣類上である。幼虫の期間が異常に長く、200 日を超えることもあるという。しかも、何か月もの絶食にも耐えるというから、何ともたくましい幼虫である。成虫が見つかった5年の教室を探したら、教室隅のホコリの塊の中に幼虫がいた。動かないので死んでいると思ったら、生きていた。釣の餌にしたら、いい成績をあげそうな姿である。サナギは見つけられなかった。



「ヒメカツオブシムシの幼虫」 C.Tanaka (水彩)

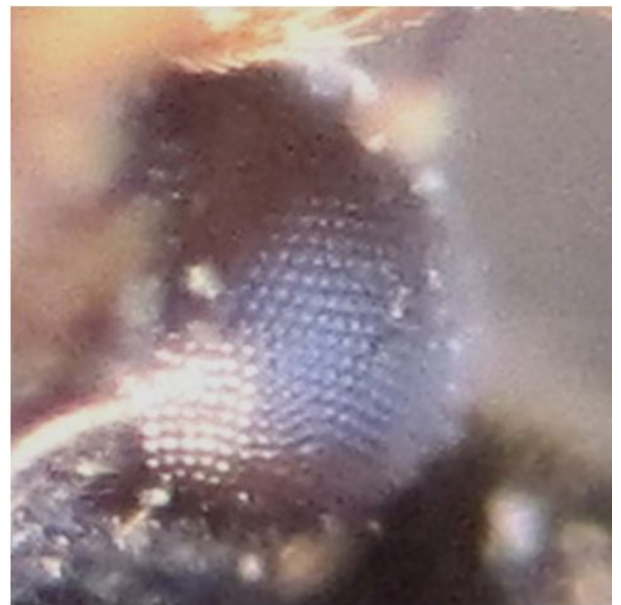
成虫もよく観察してみた。この昆虫は体長 5mm 以下なので、光学顕微鏡低倍率の好対象となる。接眼 10 倍、対物 4 倍で観察してみた。



肉眼ではまったくわからなかったが、黒光りする前翅(鞘翅)の表面に、無数の細毛が見える。この毛はどんな役割を持っているのだろうか。そういえば、ほかの甲虫の鞘翅にも気が見られる。



腹側からも顕微鏡で観察してみた。小さな甲虫でも、驚くほど精密な体の構造をしている。



更に倍率を上げると、眼の構造も見えてきた。非常に美しい複眼の模様である。左右の目からも毛のようなものが生えているのも面白い。これは、是非授業で子どもたちにも、顕微鏡で観察させたいと思った。